

昭和41年度 和歌山県文化賞

いつ き せい しょう
逸 木 盛 照 (号 清流 又は 古楊)

住 所：和歌山県那賀郡粉河町

出 身 地：和歌山県海草郡野上町

生 年：明治18年

■職業

粉河寺住職・郷土史研究家

◎業績及び経歴

明治42年早稲田大学卒業後現在まで50余年ひたすら郷土史の研究に取り組む。

大正14年から昭和7年まで天台宗叡山学院教授として印度哲学史、日本史を講じた。

昭和21年より5年間、和歌山県重要美術調査委員として文化財の調査保存にあたったほか、「紀伊郷土」「紀州文化研究」等の研究誌にも再三執筆した。

昭和26年粉河観音宗を設立し管長の職に就任、現在にいたる。

その間氏は粉河寺住職のかたわら、柳田国男氏の「郷土研究」に協力して毎号紀北の民俗について執筆、報告と紹介に努め、又月刊誌「白潮」を創刊し、紀北地方の歴史伝説を連載した。

昭和37年紀北の文化研究団体の結成を發起し、粉河文化史友会の会長として毎月例会をもち、ますます発展の一途をたどっている。

著書には、「冷泉為恭」「冷泉為恭の生涯」など古美術研究の名著のほか、「仏教大師御事蹟誌」「西国三十三ヶ所御詠歌講話」等あり、更に氏の研究成果の集大成ともいべき紀州の伝承をまとめ上げた「紀伊民俗誌」も原稿整理を終え近く出版される運びになっている。

氏は又昭和14年以来22年間保護司としてよく地域の浄化に努めた功績により、昭和35年法務大臣賞を受けている。